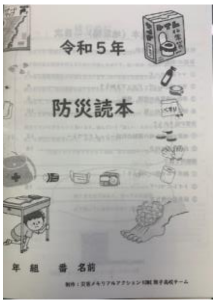
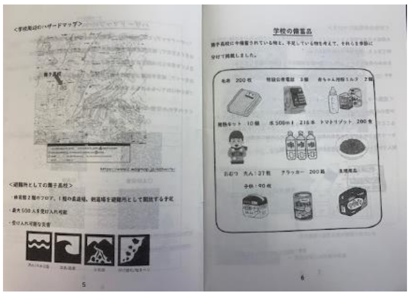
校長室から SEASON1 NO.42 R6.1.10

新年明けましておめでとうございます。令和6年が始まりました。今年は元日に阪神･淡路大震災級の地震が能登半島で起きました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますと共に被災された方々にお見舞い申し上げます。そして本校として一日も早い復興に協力していけるようできることを考え、長期的な支援を進めていきたいと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

１月６日には「伝える大震災、つながる防災～災害メモリアルアクションKOBE　ACTION2024」が人と防災未来センターで開催され、本校環境防災科も最終報告会に参加しました。本校は、職員への聞き取りを行うインタビュー班と本校の防災準備状況をまとめた防災読本作成班の活動を報告し、その防災読本を参加者に配布していました。何がどこにあって、どんな状況で保管されているかなどとても参考になることが多く、参加者の方々もくまなく目を通されているようでした。インタビュー班は中間報告会で得られた意見を元に聞き取りを詳しく進め、年表にまとめるなどし、防災読本に反映させる次年度に向けた課題として取組を進めていくことを報告していました。トップバッターという重圧を感じながらもしっかりと伝えていたように思います。





また滋賀県立彦根東高校は新聞部が身近な校内自販機の2度にわたる値上げからエネルギー問題、さらには弱者の避難に関して防災の立場から独自取材を行い、その内容を記事にしたことを発表していました。新聞部という立場での発表であったため少し立場の違った内容で、とても新鮮に感じました。兵庫県立尼崎小田高校は、防災ジュニアリーダー育成会でも発表されたように、こちらも看護医療類型の特長を生かした防災に関係する発表でとても興味深く聞いていました。他にも明石工業高等専門学校がゲーム作成による防災への関心啓発であったり、神戸学院大学の山火事の状況調査からの提言、岩泉町高齢者施設の大雨被害からの教訓を伝えたり、さらには明石市内の高校生、卒業生の有志メンバーで結成したTEAM－3Aの「いつでも、どこでも、だれでも、楽しくぼうさい」をテーマとして活動する報告がありました。関西大学は防災教育の普及速度や普及率からその教訓が生かされているかどうかを検証した内容の発表であったり、兵庫県立大学は出前授業やイベントを通しての防災周知活動や灘の浜地域の震災後の取組を紹介したりするなどいつもとは違った視点での発表の多くにとても勉強になりました。発表の後は、「これからの『報せる』は？」というテーマでパネルディスカッションが行われ、災害未経験者が未経験者に報せることについてどのように考えて行くかをパネラーの意見を中心に参加者からも意見を募りまとめていく形で進められました。「報せる」時に工夫したことなどをパネリストが紹介する中でそれぞれの視点を学ばせてもらいました。同時進行で、大阪防災プロジェクト代表の方々がグラフィックファシリテーションとして発表内容やパネルディスカッションの内容を絵と言葉でまとめながら伝えることもされていました。最後に講評を行った「人と防災未来センター」の河田センター長は悲しいことを伝えていくのではなく、楽しいこととして伝えていくことが大事であるという話をされました。センター長自身の「私は1946年南海大地震の時に生まれたから必ず起こると言われている南海トラフ地震は私が亡くなるときに起こるはずだから私は死ねない、そう考えると楽しく学びを進めることができる」というポジティブな話はとても印象に残りました。楽しく学び楽しく覚えていく

ことは学習の基本です。是非そういった考えができるようになりたいと実感しました。

１月９日は3学期始業式。私の式辞では、能登半島地震の話と2学期終業式でのお願いした話の確認をしました。加えて、箱根駅伝での青山学院大学の優勝から「負けてたまるか、大作戦」について話をしました。そのときにベストなコンディションを持って行く難しさはどこの大学も感じていることですが、ベクトルを同じ方向に持っていく意味において、このような目標を掲げることは大事ということを改めて感じさせられました。また「負けてたまるか」はライバルには勿論ですが、最終的には自分にも負けないということも示しているという話を原監督はされていましたので、私たちにもあてはまる内容であると感じた次第です。３学期は今の学年のまとめの学期でもありますが、４月以降次のステージに向けた準備の学期でもあります。思いを持って自らの力を高めることができるよう取り組んで欲しいという話で締めくくりました。頑張っていきましょう。